

地対協コーナー

今号では、1月に開催された委員会の報告をお届けします。1月12日(木)には小児医療体制検討専門委員会、1月13日(金)には産科医療体制検討専門委員会を続けて開催いたしました。本県の周産期・小児医療に関する、病院勤務医の勤務環境や医療提供体制の確保は、厳しい状況が続いています。各委員会では、限りある資源と効率的な医療提供の観点から、医療の質の向上、安全な医療を継続的に確保する方策について意見交換を行いました。詳細は報告をご確認ください。

皆さまのご要望やご意見などがございましたら、遠慮なく、事務局までお寄せください。また、過去の各委員会活動などは、地対協ホームページ(<https://www.citaikyo.jp/>)へ掲載していますので、アクセスをお待ちしております。

○第1回小児医療体制検討専門委員会

日 時：令和5年1月12日(木)19時00分

場 所：Web会議

(広島県医師会館 2階 201会議室)

委員長：岡田 賢

来年度から本格化する第8次保健医療計画の策定に向け、引き続き医療の質の向上と安全な医療を確保していくため、周産期・小児医療提供体制における医療資源の集約化・重点化等について、先行して協議・検討を行った。

協議事項

・第8次保健医療計画における医療資源の集約化・重点化について

周産期医療及び小児医療の両分野は、妊娠から産後の母子の保健・医療、小児に対する医療などシームレスに関連している分野であることから、次期保健医療計画に係る協議・検討を一体的・効率的に進めることとしている。

広島県医療介護政策課より、本県の周産期・小児医療体制の現状として、人口減少と医療需要について、患者等の受け入れ状況、医師の状況について報告があった。平成18・19年度に医療資源の集約化・重点化に関する検討を行ってから15年が経過しているが、この間、出生数や小児人口は減少を続ける一方で、医師数に大きな伸びは見られず、医師の高齢化も進んでいる。前回の検討当時の課題認識は改善、解消されておらず、病院勤務医の勤務環境や医療提供体制の確保は、厳しい状況が続いている。

これらの本県の医療提供体制の現状を鑑み、限りある資源と効率的な医療提供の観点から、医療の質の向上、安全な医療を継続的に確保していくため、高度・専門的な医療機能の集約化・

重点化を進める必要があるとして、第8次保健医療計画における医療資源の集約化・重点化等の方針等について提案があり、意見交換を行った。

【基本的な方針】

- ① 引き続き、現行の医療圏を基本に「正常に経過する分娩」を取り扱う施設があり、「初期の小児救急患者等」が受診可能な体制を維持していくこと。
- ② 集約化・重点化は、医療機能（高度・専門的な医療、救急）の維持・強化を図る上から各圏域の中核となる病院とし、両分野についてできるだけ同一の医療機関となるよう、進めていくこと。
- ③ 医療需要の減少と地域ごとの差の拡大が見込まれること、アクセスを一定程度確保する必要があることから、患者の動向等を踏まえ、「相互に連携を強める圏域」を設定し、必要な医療を確保していくこと。
- ④ 医師の勤務環境が適切に保たれるよう、特定の医療機関へ負担を集中させないこと。

○周産期・小児医療を各圏域の中核となる病院（原則1つ）に集約化・重点化し、両分野をできるだけ同一の医療機関となるよう進めていくことについて

《意見交換等》

・呉には中国労災病院と呉医療センターがあるが、どちらかに小児科だけ集約することはできない。広島市では、小児救急は舟入市民病院が担い、新生児医療は広島市民病院や県立広島病院が担っているように、病院間で機能分担をされているが、呉に限らず、他医療圏では、複数の病院に機能分担することは、まず不可能である。そうすると小児科だけ勝手に集約できないので、分娩を取り扱う病院と

うまく話をあわせていかなければならない。

- ・各総合病院の小児医療では、専門性が求められている。広島市内では各総合病院で専門分野が分かれているが、新病院が計画されているので、今後を踏まえ改めて検討が必要かと考えている。広島市以外の地域の病院については、各地域でそれぞれの専門性も求められているが、広島や福山の病院との連携も継続していく必要がある。
- ・集約化・重点化においては、産婦人科と一緒に動くべきであり、産婦人科があるのに小児科が引き上げるわけにはいかない。
- ・新生児医療について、NICU全体の病床数は、今後少子化が進んでいくことを考えると、概ね今の病床数で充足している。
- ・福山においても、産婦人科と小児科は同一の医療機関を拠点として検討している。加えて、小児の2次救急（あるいは2.5次救急）の体制もできれば一カ所に対応し、働き方改革、患者への対応密度も含め、産婦人科、小児科・小児救急の両立できる状況を目指していこうと検討している。

○「各圏域の中核となる病院」について

基本的な方針における「各圏域の中核となる病院」については、15年前の「連携強化病院」「連携病院」の集約化・重点化の考え方をもとに、各圏域の中核となる病院（連携強化病院）を原則1つに特定すること（連携している広島・広島西圏域、福山・府中圏域では、複数となることも想定される）とし、拠点性が明確な地域周産期母子医療センターに認定されている医療機関をベースに検討する旨の提案があり、意見交換を行った。

【各圏域の中核となる病院】

- ・広島・広島西圏域は、「高度医療・人材育成拠点の整備」に伴う医療機能再編と合わせた検討が必要ではないか。
- ・呉圏域は、15年前は他圏域を補完する必要性等を勘案し、2カ所程度としたが、広島中央圏域の拠点整備を踏まえ、圏域において検討することとしてはどうか。
- ・広島中央圏域は、現状から「東広島医療センター」ではないか。
- ・尾三圏域は、現状から「JA尾道総合病院」ではないか。
- ・福山・府中圏域は、地域周産期母子医療センターである福山医療センターと、小児救急医療拠点であり、今後、周産期医療機能の強化

を目指している福山市民病院との今後の見通しや役割分担も含め、圏域において検討することとしてはどうか。

- ・備北圏域は、現状から「市立三次中央病院」ではないか。

《意見交換等》

- ・東広島医療センターは平成24年4月から地域周産期母子医療センターに認定され、認定当初と比べて手のかかる症例も診ることができるようになり、大分自施設で完結できるようになった。
- ・中国労災病院では、分娩数はピーク時には年間900件くらいあったが、現在は半分程度に減少している。呉全体の人口の減少、小児の減少と、東広島医療センターの開設に伴って大きく減少している。
- ・呉医療センターも同様で、分娩数は年間1,000件程度から、500～600件程度に減少している。ただし0件にはならないはずであり、集約化については、中国労災病院、呉医療センターそれぞれの病院の個別の事情もあり、なかなか一本化というわけにはいかないのではないか。

○「相互に連携を強める圏域」の設定について

将来を見据え「相互に連携を強める圏域」として、従来からの「広島と広島西」に加え「備北」、新たに「呉と広島中央」、「尾三と福山・府中」の3つのエリアを設定し、必要な医療を確保していくことが提案され、意見交換を行った。

《意見交換等》

- ・県北は他の地域と比べて高齢者の比率が高く、労働人口が少ないため、今一番問題なのは、看護師や助産師等も含めた小児、産科に携わるコメディカルの人材が減ってきていることである。備北からは距離的に少し遠いが、広島・広島西とは今後さらに強い連携が必要になるかと思う。
- ・今後の人口減少等を見据えた中で、3つの圏域を念頭に置きながら連携を図っていくことを想定し、圏域間での話し合いが十分にできる体制を作り、検討した方が良い。
- ・広域連携を検討される場合は、福山は岡山県と、広島西は山口県、県北も島根県との連携も強いので、隣接する県とも話をしながら構想を検討いただきたい。

○広島県小児科医会「小児科医の働き方に対するアンケート」について

広島県小児科医会の森委員より、昨年3月に広島県小児科医会の会員へ実施した「小児科医の働き方に対するアンケート」の結果について報告があった。アンケート調査では、女性の働き方に関して大切と考えるものとして、パートナーの理解と協力、職場上司の理解や小児科医数のほか、育児中の医師の勤務に関する公的支援があると良い、などの意見があった。また、勤務医の働き方改革に対して大切と考えるものとして、職場の小児科医数、看護師・薬剤師・医療事務などの他職種による役割分担、複数主治医制との回答のほか、病院の統合により、一病院に医師・その他のスタッフ・ベッド数を多くすることで働き方改革ができるとの意見もあった。

アンケートの結果より、医師でなければできないことに集中できる環境作りが大切で、その人にあった仕事をしてもらうことが離職を防ぐことにつながるとの報告があった。

○第1回産科医療体制検討専門委員会

日 時：令和5年1月13日(金)19時00分

場 所：Web会議

(広島県医師会館 2階 201会議室)

委員長：工藤 美樹

来年度から本格化する第8次保健医療計画の策定に向け、引き続き医療の質の向上と安全な医療を確保していくため、周産期・小児医療提供体制における医療資源の集約化・重点化等について、先行して協議・検討を行った。

協議事項

・第8次保健医療計画における医療資源の集約化・重点化について

周産期医療及び小児医療の両分野は、妊娠から産後の母子の保健・医療、小児に対する医療などシームレスに関連している分野であることから、次期保健医療計画に係る協議・検討を一体的・効率的に進めることとしている。

※広島県医療介護政策課による現状報告と基本的な方針の説明は、前掲の「小児医療体制検討専門委員会」を参照。

○「各圏域の中核となる病院」について

基本的な方針における「各圏域の中核となる病院」については、15年前の「連携強化病院」

「連携病院」の集約化・重点化の考え方をもとに、各圏域の中核となる病院(連携強化病院)を原則1つに特定すること(連携している広島・広島西圏域、福山・府中圏域では、複数となることも想定される)とし、拠点性が明確な地域周産期母子医療センターに認定されている医療機関をベースに検討する旨の提案があり、意見交換を行った。

※各圏域の中核となる病院については、前掲の「小児医療体制検討専門委員会」を参照。

○「相互に連携を強める圏域」の設定について

将来を見据え「相互に連携を強める圏域」として、従来からの「広島と広島西」に加え「備北」、新たに「呉と広島中央」、「尾三と福山・府中」の3つのエリアを設定し、必要な医療を確保していくことが提案され、意見交換を行った。

《意見交換等》

- ・圏域の連携について検討する際は、入院患者の流入・流出等のデータについて、全体ではなく、産婦人科・産科のデータを示していただきたい。
- ・広島大学産婦人科の入局35年以上の医師が、現在関連病院の部長であり、今の病院数が維持できているが、今後数年間で定年を迎え多くの医師が抜けた後に、入局25～30年の医師で今の病院数が維持できるかという点と難しい。働き方改革の規制もあり、人数の少ないところで働くのは無理がある。集約化・重点化で病院の数を減らさなければ周産期医療体制が維持できない。
- ・広島市周辺では、大学病院で高度な合併症の患者等を診ているほか、総合病院と開業施設の連携がうまくいっている。
- ・県立広島病院や広島市民病院、大学病院等でハイリスク症例を診ることのできる医師を育てるなど、教育にも力を入れる必要がある。例えば東広島の病院で症例数を重ねトレーニングし、いろいろな病院へ行くといった流れも作っておくなど、35年以上の医師がいなくなった時のことも検討し、育成しなければならない。今後、広島県の周産期医療が維持できなくなることは絶対に避けたい。
- ・呉や東広島におけるNICUの入院児数・病床使用率や、ハイリスク妊娠の取り扱い割合が低いことは、症例数が少ないことが要因と考えられる。これらの圏域に現在の施設数が必要かは検討し直さなくてはならないのではないか。

- ・ハイリスク妊娠の数自体が減っているから、医師数が少なくなっている良いかというと、それでは医療は成り立たない。やはり人数を揃えなければ現在の医療は維持できない。
- ・呉と広島中央については、できれば2つの圏域を合わせてどのように連携していくのか検討いただきたい。
- ・福山では、福山医療センターに地域周産期母子医療センターがあるが、今後、福山市民病院に総合周産期母子医療センターができる予定がある。今後、岡山大学とも連携を取りながら検討する必要がある。
- ・福山市民病院は、2026年4月にNICUを稼働し始める予定。将来的に総合周産期母子医療センターの認定が取得できるだけのハードを作る予定である。

・周産期医療の安全のため、働き方改革や医師不足を補うためにも、ぜひ助産師の活用を検討いただきたい。

・今後について

今後は、本委員会ならびに小児医療体制検討専門委員会での議論を踏まえ、各圏域地対協において議論いただき、次年度早期(6月頃を予定)に広島県周産期医療協議会と小児医療合同会議(「周産期・小児医療協議会」として組織設置することも検討)において整理し、医療計画の策定指針と今回の整理を踏まえ、次期保健医療計画の「周産期医療対策」「小児医療(小児救急医療を含む)対策」について検討を行っていく予定である。

県地対協からの提供資料について

県地対協では以下の県内共通クリティカルパス、パンフレット、マニュアル等を作成しています。ご入り用の際は下記事務局までご連絡ください。

【地域連携クリティカルパス】

- 乳がん患者さんのための「わたしの手帳Ver.7」
- 肺がん術後患者用「わたしの手帳Ver.3」
- 心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス
- 心筋梗塞・心不全手帳の使い方 ご本人・ご家族用
- 前立腺がん 手帳 地域連携パス
- 甲状腺がん 手帳 地域連携パス
- 大腸がん 手帳 地域連携パス

- 大腸がん内視鏡治療後患者用手帳
- 胃がん 手帳 地域連携パス
- 胃がん内視鏡治療後患者用手帳

など

【パンフレット・マニュアル】

- ACPの手引き 「豊かな人生とともに…」

【事務局】 広島県医師会地域医療課 電話：082-568-1511 Eメール：citaikyo@hiroshima.med.or.jp



乳がん患者さんのための「わたしの手帳 Ver.7」



肺がん術後患者用「わたしの手帳 Ver.3」



心筋梗塞・心不全 手帳 地域連携パス



心筋梗塞・心不全手帳の使い方 ご本人・ご家族用



前立腺がん 手帳 地域連携パス



甲状腺がん 手帳 地域連携パス



大腸がん 手帳 地域連携パス



大腸がん 内視鏡治療後患者用手帳



胃がん 手帳 地域連携パス



胃がん 内視鏡治療後患者用手帳



ACPの手引き 豊かな人生とともに

など

※一部ホームページにて公開中

広島県 地対協

検索